



セカンドパーティ・オピニオン
SECOND PARTY OPINION

株式会社ダイキアクシス
サステナビリティファイナンス・フレームワーク適格性
アセスメント報告書 改訂 1.0

Prepared by: DNV ビジネス・アシユアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2021 年 9 月 28 日

Ref. Nr.: PRJN-289367-2021-AST-JPN




報告書サマリー

株式会社ダイキアックス(以下、ダイキアックス)は、2005年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとし、中期経営計画(ESG経営の推進)に基づき、社業を通じた環境改善の推進を重点施策として定めています。

サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)の実施に当たり、ダイキアックスは、新たなグリーンプロジェクトを追加した「株式会社ダイキアックス サステナビリティファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を更新し、調達資金の21.8億円を下表のプロジェクトに充当することを計画しています。更新されたフレームワークでは、具体的な資金使途として、「環境機器関連事業」のうち、水関連インフラ事業の海外展開地域の見直しと追加、そして「再生可能エネルギー関連事業」のうち、太陽光発電事業を行う事業会社に対するM&Aを追加対象としています。

今回ダイキアックスが、フレームワーク更新に伴い、追加で外部レビューを取得することは、投資家及び金融機関等の様々なステークホルダーに対する積極的な情報開示であり、更新されたプロジェクトのグリーン適格性やその実行計画及び体制について透明性及び信頼性が確保されるものです。ダイキアックスのサステナビリティファイナンスを活用した中期経営計画(ESG経営の推進)の実行を通じ、サステナブルな社会の実現に向けた取組みが、市場に幅広く認知されるものと期待されます。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、当該プロジェクトのグリーン性及びソーシャル性^{*1}について、現在資本市場において幅広く認知されているグリーンボンド原則、グリーンローン原則やソーシャルボンド原則等で定められる4つの核となる要素を参照もしくは適用し^{*2}、フレームワークの適格性を評価しました。このサステナビリティファイナンスにより実行される適格プロジェクトは、国連の定める持続可能な開発目標(SDGs)に関連してダイキアックスが進める6つ目標のうち、特に「6. 安全な水とトイレを世界中に^{*3}」「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13. 気候変動に具体的な対策を」に直接的、間接的に貢献する取組みです。

サステナビリティプロジェクトポートフォリオ	サステナビリティプロジェクトカテゴリ ^{*2} (適格クライテリア)	サステナビリティプロジェクト(充当予定額)	サステナビリティプロジェクト概要	SDGsへの貢献
環境機器関連事業 (水関連インフラ事業)	環境貢献(グリーン) *プロジェクト-01、02、03 - 持続可能な水資源および廃水管理 - 汚染防止と管理 社会貢献(ソーシャル) *プロジェクト-03 - 手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水) - 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)	プロジェクト-01: 浄化槽製造工場の建設・運営等(10.7億円)	浄化槽増産及び新規生産にかかる、工場建屋・設備及び土地取得資金(インド、バングラデシュ、ケニア、ミャンマー、スリランカ)	6. 安全な水とトイレを世界中に 
		プロジェクト-02: 排水処理システムの製造・設置・運営等(BOO・BOT事業)(2.7億円)	BOO・BOT事業による排水処理システムの提供(インド、バングラデシュ、ケニア、スリランカ、ミャンマー)	
		プロジェクト-03: Water Kioskによるクリーンな飲料水の供給(0.4億円)	RO膜を利用したクリーンな飲料水を提供するための販売設備の建設・運営	
再生可能エネルギー関連事業 (太陽光発電事業)	環境貢献(グリーン) - 再生可能エネルギー [エネルギー起源CO ₂ 削減]	プロジェクト-04: 太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等(8億円)	太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等を行う事業会社のM&A資金	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13. 気候変動に具体的な対策を  

更新されたフレームワークに対する、下記 4 つの核となる要素に対する DNV 評価結果概要は以下の通りです。

要素 1. 調達資金の使途 : サステナビリティファイナンスによる調達資金のうち 13.8 億円を「環境機器関連事業」の水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開に、8 億円を太陽光発電事業を行う事業会社に対する M&A に焦点を当てた、上表のサステナビリティプロジェクトに充当します。

要素 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス : プロジェクトは、ダイキアックスのグループ経営理念、中期経営計画 (ESG 経営の推進) に合致するものです。プロジェクトの評価及び選定は、グリーンボンド原則、グリーンローン原則、ソーシャルボンド原則をはじめとする関連する基準を参照及び適用し、ダイキアックスが定める手順で行っています。また、評価及び選定の際、環境関連法令及び諸規則の遵守、地域コミュニティへの対応を行い、プロジェクト実行により確実に環境・社会貢献が得られることを確認しています。

要素 3. 調達資金の管理 : 調達資金はダイキアックス財務部で、ダイキアックスの内部管理手順を用いて管理します。調達資金のうち 21.8 億円は、新たに実行する適格プロジェクトへの新規もしくはリファイナンスとして充当される計画です。調達資金は、新株予約権行使後もしくはローン実行後(資金調達後)から充当までの間、現金または現金同等物で管理します。

要素 4. レポート : ダイキアックスは資金充当状況、インパクトレーティング(環境・社会改善効果)を 1 年に 1 回、調達資金の大半が充当されるまでの間、ダイキアックスウェブサイトで報告する予定です。また、継続的にサステナビリティファイナンスへの適合に対する確実性(整合性)、客観性を高めるために、プロジェクト完工後 1 年後まで DNV によるレビューを取得予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとするダイキアックスより提供された関連文書・情報から、ダイキアックスサステナビリティファイナンスが関連する基準を参照し、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

*1: グリーンボンド原則(ICMA, 2021)、グリーンローン原則(LMA 2021)、ソーシャルボンド原則(ICMA, 2021)、サステナビリティボンドガイドライン(ICMA, 2021)、気候ボンド基準 (CBI, v3.0) で示される代表的な適格プロジェクトカテゴリーより引用。

*2: 新株予約権は債券(ボンド)やローンと異なるため、4 つの要素を参照して適格性を評価。ローンはグリーンローン原則で定める 4 つの要素全てを適用し、また、その他原則・ガイドラインも参照し適格性を評価。

*3: インド中央政府(水環境省)が掲げる“Jal Jeevan Mission(JJM)”のうち飲料水問題解決に対する取組みに合致

目次

報告書サマリー	2
Ⅰ まえがき	6
Ⅱ スcopeと目的	8
Ⅲ ダイキアクシス及び DNV の責任	9
Ⅳ DNV オピニオンの基礎	10
Ⅴ 評価作業	11
Ⅵ 観察結果と DNV 意見	12
Ⅶ 評価結果	20
スケジュール-1 ダイキアクシス サステナビリティファイナンス	21
スケジュール-2 ダイキアクシスサステナビリティファイナンス適格性評価手順	22
SF-1 調達資金の使途	22
SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	24
SF-3 調達資金の管理	25
SF-4 レポーティング	27

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2020年8月21日	初版発行
1.0	2021年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> - 水関連インフラ事業における工場建設対象国の追加（インド） - 資金使途の対象プロジェクト分類を追加(太陽光発電事業) - 各基準の改訂・追加に伴う再評価の実施（グリーンボンド原則：2018年版→2021年版、グリーンローン原則：2018年版→2021年版、ソーシャルボンド原則：2020年版→2021年版、グリーンボンドガイドライン 2020年、グリーンローンガイドライン 2020年版、サステナビリティボンドガイドライン：2018年版→2021年版、気候ボンド基準 3.0版：太陽光関連セクター基準） - スケジュール-3 太陽光関連セクター基準を追加 - スケジュール-4 グリーンローンガイドライン適格性評価を追加 - その他、形式的な変更(DNV GL→DNV への社名変更に伴う変更等)

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

I まえがき

基本情報

株式会社ダイキアックス(以下、ダイキアックス)は、2005年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとし、社業を通じた環境改善の推進を重点施策として定めています。今回のサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)の資金使途は、「環境機器関連事業」のうち、水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開及び太陽光発電事業を展開する事業会社に対する M&A のプロジェクトを対象としています。ダイキアックスは、サステナビリティファイナンスの発行に当たり、「株式会社ダイキアックス サステナビリティファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を確立し、調達資金のうち 21.8 億円を充当することを計画しています。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、当該プロジェクトのグリーン性及びソーシャル性^{*1}について、現在資本市場において幅広く認知されているグリーンボンド原則、グリーンローン原則やソーシャルボンド原則等で定められる 4 つの核となる要素を参照もしくは適用し^{*2}、サステナビリティファイナンス・フレームワークの適格性を評価しました。

DNV は、フレームワークをはじめとするダイキアックスより提供された関連文書・情報から、ダイキアックスサステナビリティファイナンスが関連する基準を参照し、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

*1:グリーンボンド原則(ICMA、2021)、グリーンローン原則(LMA 2021)、ソーシャルボンド原則(ICMA、2021)、サステナビリティボンドガイドライン(ICMA、2021)、気候ボンド基準(CBI、v3.0)で示される代表的な適格プロジェクトカテゴリーより引用。

*2: 新株予約権は債券(ボンド)やローンと異なるため、4 つの要素を参照して適格性を評価。ローンはグリーンローン原則で定める 4 つの要素全てを適用して適格性を評価。

発行体名称 : 株式会社 ダイキアックス

フレームワーク名 : ダイキアックス サステナビリティファイナンス・フレームワーク

外部レビュー機関名 : DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日 : 2021 年 9 月 28 日

報告書公開日 : 2021 年 10 月 1 日(予定)

発行体について

ダイキアックスは、1958年にタイルと衛生陶器の専門店である大亀商事の創業に始まり、その後ダイキ商事株式会社への商業変更を経て、全額出資子会社として設立、その後マネジメント・バイアウトにて独立しています。現在、ダイキアックスグループは、ダイキアックス及び連結子会社 14 社(国内 7 社、国外 7 社)及び関連会社 2 社(国外 2 社)で構成されています。

ダイキアックスの主要セグメントは浄化槽・排水処理システムを主力とした「環境機器関連事業」、システムキッチンに代表される「住宅機器関連事業」、太陽光発電事業及び小形風力発電機事業及びバイオディーゼル燃料関連事業等の「再生可能エネルギー関連事業」を主な事業として取組んでいます。

ダイキアックスはグループ経営理念として「ダイキアックスグループは、PROTECT×CHANGE『環境を守る。未来を変える。』を使命とし、環境創造開発型企業として発展を続けることで、社員の生活向上及び社会の発展に貢献する。』^{*1}

を掲げると共に、具体的な中期経営計画(ESG 経営の推進)^{*2}として、上記の主な事業を通じ、環境分野においては特に、①水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド・アフリカ)展開、②太陽光発電事業や小形風力発電機事業を核とする再生可能エネルギー関連事業に注力しています。

また、ダイキアックスは国連の SDGs を踏まえ、優先的に 6 つの重要課題(マテリアリティ)に取り組んでいます^{*3}。

今回のサステナビリティファイナンスを通じた水関連事業及び再生可能エネルギー関連事業を通じた活動の推進は、直接的、間接的に環境及び社会課題に貢献する取り組みです。この事業活動はダイキアックスの定めるグループ経営理念、中期経営計画(ESG 経営の推進)、また SDGs 目標の 6「安全な水とトイレを世界中に」「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13. 気候変動に具体的な対策を」への貢献と密接に関連しています^{*4}。

SDGs 目標	活動	ダイキアックスグループの取り組み
	水関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> 人口の多い中国、インド、インドネシアに浄化槽の製造拠点の建設 ベトナム、ミャンマー、スリランカのアジア諸国、アフリカのケニアでは現地企業との販売代理店契約締結
 	再生可能エネルギー関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業や小形風力発電事業を主とした再生可能エネルギー関連事業による CO₂ 削減に向けた取り組みを実施
	各事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> 各事業での省エネ商材の採用に注力 自社活動に伴い発生する電力を 100%再生可能エネルギーでまかなうことに向けた取り組みを推進
 		<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革とダイバーシティの推進 女性のボードメンバー登用 女性活躍推進で「くるみん認定(厚労省の認定制度)」を取得

* 1 : コーポレートスローガン : <http://www.daiki-axis.com/company/index03.html>

* 2 : ESG への取組 <http://www.daiki-axis.com/ir/001/index002.html>

* 3 : ESG 経営の推進、SDGs への取組、2021 年 12 月期第 2 四半期決算説明会(2021 年 9 月 2 日)

* 4 : SDGs との関連性は、グリーンボンド原則を定める ICMA が公開している Green, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goals を参照した、グリーンボンド発行に際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

II スコープと目的

ダイキアックスは DNV に「ダイキアックスサステナビリティファイナンス」の発行前評価及び定期レビューを委託しています。DNV における発行前評価および定期レビューの目的は、ダイキアックスが発行するサステナビリティファイナンス・フレームワークが、後述する GBP、GLP、SBP をはじめとする各種基準を参照もしくは適用し、環境課題及び社会課題の解決に資することの確認、評価により、適格性についてセカンドパーティ・オピニオンを提供することです。

今回のアセスメント報告書の改訂にあたり、水関連インフラ事業における工場建設対象国の追加（インド）、資金使途の対象プロジェクト分類の追加(太陽光発電事業)が行われました。

DNV は、ダイキアックスとの間で合意された契約書に示された本業務の作業範囲を遂行するにあたって、利害関係が予見される直接的な株主としての関係を含めて、ダイキアックスとの間にその他一切の業務上の関係を保持していません。また、この報告書では、サステナビリティファイナンス^{*1}の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境及び社会便益に関する保証も提供されません。

*1:サステナビリティファイナンス特有の資金調達に関する取扱いは、後述 VI.(3)項を参照ください。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目を評価し、GBP の主要な 4 要素との整合性について確認されました

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

(3) 適用される基準もしくはガイドライン

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル
1.	グリーンボンド原則 2021、GBP	国際資本市場	参照
2.	グリーンボンドガイドライン 2020 年版、GBGLs	環境省	参照
3.	ソーシャルボンド原則 2021、SBP	国際資本市場	参照
4.	サステナビリティボンドガイドライン 2021、SBG	国際資本市場	参照
5.	グリーンローン原則 2021、GLP	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA) 他	適用
6.	グリーンローンガイドライン 2020 年版、GLGLs	環境省	適用
7.	気候ボンド基準 3.0 版(対象セクター技術基準：水インフラセクター基準、太陽光関連セクター基準)、CBS(CBS-WI、CBS-SE)	気候ボンドイニシアチブ	参照 (適用可能な技術基準)
8.	グリーンボンド及びソーシャルボンド：持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場	参照
9.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場	参照

Ⅲ ダイキアクシス及び DNV の責任

ダイキアクシスは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンドパーティオピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてダイキアクシス及びファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々の提供する意見表明は、ダイキアクシスから提供された情報及び事実に依拠にしています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、ダイキアクシスの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV DNV オピニオンの基礎

DNV は、発行体にとってより柔軟なサステナビリティファイナンス適格性評価手順(以下、手順)を作成するために、GBP、GLP、GBGLs、GLGLs、SBP、SBG をはじめとする各種基準の要求事項を参照したダイキアックスサステナビリティファイナンス評価手順を適用しました。この手順は GBP、GLP、SBP 等の 4 つの核となる要素を参照もしくは適用しています。

DNV のサステナビリティファイナンス評価手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、サステナビリティファイナンスは「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのサステナビリティファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの原則にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、サステナビリティファイナンスの発行体が適格性を有するサステナビリティファイナンスにより調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境もしくは社会改善効果を提供するものです
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、サステナビリティファイナンスの発行体が、サステナビリティファイナンス調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、サステナビリティファイナンス調達資金が発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金(新株予約権行使後もしくはローン調達～プロジェクト充当までの期間)がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポーティング**：レポーティングの基準は、サステナビリティファイナンスへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V 評価作業

DNV の評価作業は、発行体によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

追加アセスメント[アセスメント報告書の改訂に伴う追加アセスメント]

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、ファイナンスへの適用を目的とした発行体特有の評価手順の作成
- このサステナビリティファイナンスに関して発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価(これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します)
- 発行体との協議及び、関連する文書管理のレビュー
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成

定期(年次)アセスメント *この報告書には含まれません

- サステナビリティファイナンス実行に関連した発行体により提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、及び発行体の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類の評価(これらのチェックは、現在の評価ベストプラクティスと標準方法論を参照します)
- 発行体の管理者との協議、および関連文書管理のレビュー
- 現地調査および検査(必要な場合)
- 定期評価時点での、スケジュール-2 に記載された対象プロジェクト及び資産のレビュー
- 本書で詳述されている、定期評価の観察結果の文書作成

DNV の意見表明(詳細は後述)はこれらを要約したものです。

VI 観察結果と DNV 意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の使途

DNV はダイキアックスがサステナビリティファイナンスにより調達した資金のうち、21.8 億円を以下の適格クライテリアに合致するプロジェクト(表-1 参照)の関連する支出^{*1}に新規ファイナンスもしくはリファイナンスとして充当する計画であることを確認しました。

各プロジェクト(01~04)は各関連基準・ガイドラインで示されるグリーン性(環境貢献)を有する代表的なプロジェクトであり、プロジェクトが実行される地域の環境改善効果並びにエネルギー起源の CO2 削減が期待されると共に、プロジェクト-03 はインド政府の掲げる水関連の社会課題解決に直接的・間接的に貢献するものであり、プロジェクト対象地域住民またはプロジェクトを利用する人々への清浄な飲料水の供給という観点で、社会的便益があることが発行体より示されています^{*4}。プロジェクト-04 は、再生可能エネルギー関連事業を行う事業会社に対する M&A により実施されます。

適格クライテリア-1：持続可能な水資源、排水管理及び汚染の防止と管理

プロジェクト01：浄化槽製造工場の建設・運営等

プロジェクト02：排水処理事業(BOO事業・BOT事業)^{*2 *3}

適格クライテリア-2：手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水)、必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理)




プロジェクト03：Water Kioskによる清浄な飲料水の供給^{*4}

適格クライテリア-3：再生可能エネルギー関連事業

プロジェクト04：太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等

- *1 関連する支出：浄化槽増産及び新規生産にかかる工場建屋・土地・設備等の取得資金、浄化槽の BOT 事業^{*2}・BOO 事業^{*3}にかかる設置資金・ランニングコスト。
- *2 B O O 事業：(Build Own Operate)建設・資金調達・維持管理・運営をダイキアックスグループで行い、契約終了後は当社グループが施設の所有権を所有し続ける、または、施設を解体・撤去して事業を終了させる方式。
- *3 B O T 事業：(Build Operate Transfer)建設・資金調達・維持管理・運営を当社グループで行い、契約終了後に顧客に施設の所有権を移転する方式。
- *4 プロジェクト-03：インドでは政府方針として国家地方飲料水プログラム(National Rural Drinking Water Programme)に基づき、水関連の社会課題解決(全ての家庭に安全で適切な飲料水の提供をさらに可能にする)に対し、複数の水関連プロジェクトを支援している。ダイキアックスのサステナビリティプロジェクト-03 は、上記プログラムに含まれる以下の水関連の社会課題解決(出典 JJM: Jal Jeevan Mission、水生活活動)に貢献すると考えられる。インドで行政委員会(NITI Aayang)は、約 6 億人が深刻な水ストレスに直面しているとレポートしている。
 - ・飲料水の信頼性向上
 - ・ポータブル水処理技術(水質向上)
 - ・雑排水管理

表-1 ダイキアックスサステナビリティファイナンス プロジェクト
(詳細はスケジュール-1 を参照ください)

サステナビリティ プロジェクト ポートフォリオ	サステナビリティ プロジェクトカテゴリー* ² (適格クライテリア)	サステナビリティ プロジェクト (充当予定額)	サステナビリティ プロジェクト概要	SDGs への貢献
環境機器 関連事業 (水関連インフラ事業)	環境貢献(グリーン) *プロジェクト-01、02、03 - 持続可能な水資源および 廃水管理 - 汚染防止と管理 社会貢献(ソーシャル) *プロジェクト-03 - 手ごろな価格の基本的イン フラ設備(クリーンな飲料水) - 必要不可欠なサービスへの アクセス(健康、健康管理)	プロジェクト-01 : 浄化槽製造工場の建設・運 営等 (10.7 億円)	浄化槽増産及び新規生産 にかかる、工場建屋・設備及 び土地取得資金(インド、バ ングラデシュ、ケニア、ミャン マー、スリランカ)	6. 安全な水とトイレを世界中に 
		プロジェクト-02 : 排水処理システムの製造・設 置・運営等(BOO・BOT 事 業) (2.7 億円)	BOO・BOT事業による排水 処理システムの提供(インド、 バングラデシュ、ケニア、スリ ンカ、ミャンマー)	
		プロジェクト-03 : RO 膜を利用したクリーンな Water Kioskによるクリーン な飲料水の供給 (0.4億円)	RO 膜を利用したクリーンな 飲料水を提供するための販 売設備の建設・運営	
再生可能エネルギー 関連事業 (太陽光発電事業)	環境貢献(グリーン) - 再生可能エネルギー [エネルギー起源 CO ₂ 削減]	プロジェクト-04 : 太陽光発電事業の開発・運 営・設備販売等(8 億円)	太陽光発電事業の開発・運 営・設備販売等を行う事業 会社の M&A 資金	7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13. 気候変動に具体的な対策を  



Daiki Axis BA-5



Daiki Axis BA-25

写真-1 プロジェクト 01 及び プロジェクト 02 製品例(生活排水対応用浄化槽)



写真-2 プロジェクト 03 Water Kiosk 飲料水製造装置/販売サービス例



四郎丸自社発電所



鴨内発電所

写真-3 プロジェクト 04 開発・販売例

グリーンボンド原則(GBP)、グリーンローン原則(GLP)で分類される調達資金の用途

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) | |
| <input type="checkbox"/> サステナビリティファイナンス発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される | |

ソーシャルボンド原則(SBP)で分類される調達資金の用途

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅 | <input type="checkbox"/> 雇用創出(中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンス) |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障 | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント |
| <input type="checkbox"/> SBP 分類に適合すると考えられる、もしくは SBP には記載されていないが適格性のある領域である | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): |

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、スケジュール 1 に記載される環境機器関連事業(水関連インフラ事業)及び再生可能エネルギー関連事業のサステナビリティプロジェクトポートフォリオに含まれる 4 つのサステナビリティプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、「Ⅱ 項 スコープと目的(3)適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアを満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されることを確認しました。プロジェクトの実行に当たっては適格クライテリアに合致すると共に、「サステナビリティプロジェクト選出における前提条件」として下記を実施もしくは実施予定であり、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していることを確認しました。

<サステナビリティプロジェクト選出における前提条件>

- 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等)
- 地域コミュニティへの対応

評価及び選定

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境貢献・社会目標の達成に合致していること <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること <input type="checkbox"/> (具体的に記載): |
|---|---|

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言もしくは検証による評価/選定基準 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
|--|--|

(3) 調達資金の管理

DNV は、ダイキアックスが新株予約権行使もしくはローンにより資金を調達してから充当までの期間、どのように調達資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV は発行体が調達資金を資金充当時期が到来した適格プロジェクトへ順次充当する計画であることを確認しました。資金充当状況については、発行体の内部経理管理手順に基づき支出し、財務部(経理財務課)が管理することを確認しました。発行体は各会計年度毎に定期的にの残高(新株予約権行使後もしくはローンによる調達～充当までの期間にある調達資金の残高(現金または現金同等物))をレビューする計画です。

なお、先述の通り、DNV はサステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境改善効果に関する保証も提供しません。

サステナビリティファイナンスのうち、新株予約権特有の資金調達に関する取扱いは、下記を参照ください。

<重要事項>新株予約権特有の資金調達に関する取扱い

新株予約権の行使による払込みの有無と権利行使の時期は本新株予約権者の判断に依存し、また本新株予約権の行使価額は修正又は調整される可能性があるため、現時点において調達できる資金の額及び時期は確定したのではなく、現時点において想定している調達資金の額及び支出予定時期に差異が発生する可能性があります。

現時点において想定している金額の資金を調達できなかった場合や支出予定時期との関係で不足が生じた場合には、当該時点の状況に鑑み別途必要な資金をこのサステナビリティファイナンスに含まれるローン又は手元資金から充当し、又は金融機関からの借入等で調達する予定です。本新株予約権の行使により調達した資金は、各資金使途のうち、支出時期が到来したのから、順次充当いたします。

調達資金の追跡管理:

- サステナビリティファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部もしくは全ての資金は、発行体により体系的に区別もしくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他(具体的に記載):

追加的な開示情報:

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): |

(4) レポーティング

DNV は、GBP、GLP、SBP をはじめとする基準やガイドラインで要求される特定の情報に関し、発行体のウェブサイト で年次報告する予定であることを確認しました。これら情報公開には、各プロジェクト毎(プロジェクト 01~04 毎)に、調達資金の充当と管理状況、対象プロジェクトと進捗、及び関連する定性的・定量的な環境及び社会課題改善効果についての記載が含まれます。環境改善効果についてはレポーティング方法に関連するハンドブック「インパクトレポーティング調和化に関する冊子」を参照し、機密性を考慮して開示する予定であることを確認しました。具体的には以下を予定しています。

-1- 調達資金の充当と管理

調達資金の充当と管理については大半の充当が完了するまでの間、開示する予定です。開示の際は新株予約権及びローンによる調達資金を区別して開示する予定です。

- (1) 調達資金を充当したサステナビリティプロジェクト毎の設備投資額
- (2) 調達資金のうち、未充当資金の額

-2- 対象プロジェクトと進捗状況

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの所在、名称、生産品目、生産能力等の情報(機密性を考慮)
- (2) 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況(例：建設中の場合はその状況 完成予定時期等)

-3- 環境・社会課題改善効果

- (1) プロジェクト-01：浄化槽製造工場の建設・運営等
調達資金を充当した工場から製造・出荷された浄化槽数およびその浄化槽によって処理できる排水処理量見込(km³/年) ※ただし、プロジェクト-02 に係る浄化槽の製造は含まない
- (2) プロジェクト-02：排水処理事業(BOO 事業・BOT 事業)
調達資金を充当した施設の状況(設置場所、設計処理能力、稼働したプロジェクトの状況、排水処理量(km³/年))
- (3) プロジェクト-03：Water Kiosk による清浄な飲料水の供給
調達資金を充当した施設の状況(設置場所・設置基数、稼働したプロジェクトの状況、飲料水の供給量(km³/年))
- (4) プロジェクト-04：太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等
調達資金を充当した適格プロジェクトの連系工事完了済みの発電施設数、発電施設の実出力(kW)、年間発電電力量(kWh)及び CO₂ 削減量 (t-CO₂/年)、調達資金を充当し売却が完了した施設の実出力(kW)

ダイキアックスは、ダイキアックスサステナビリティファイナンスが関連する基準に継続的に適合していることの確実性(整合性)、客観性を高めるために、プロジェクト完工後 1 年後まで DNV によるレビューを取得予定です。

資金充当状況に関する報告事項:

- プロジェクト単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位
- その他(具体的に記載):

報告される情報:

- 資金充当額
- 投資総額のうちサステナビリティファイナンスにより充当された額割合
- 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位
- その他(具体的に記載):

頻度:

- 毎年
- 半年ごと
- その他(具体的に記載):

インパクトレポーティング:

- プロジェクト単位
- プロジェクトポートフォリオ単位
- 関連する個々のサステナビリティファイナンス単位
- その他(具体的に記載)

頻度:

- 毎年
- 半年ごと
- その他(具体的に記載):

報告される情報 (予測される効果、もしくは発行後) 環境貢献:

- GHG 排出量/削減量
- エネルギー削減量
- その他の ESG 評価項目(具体的に記載):
施設情報、浄化槽数、排水処理量(km³/年)

報告される情報 (予測される効果、もしくは発行後) 社会貢献:

- 受益者の数
- 受益者
- その他の ESG 評価項目(具体的に記載):
飲料水の供給量(km³/年)

開示方法

- 財務報告書に記載
- サステナビリティレポートに記載
- 臨時報告書に記載
- その他(具体的に記載): ダイキアックスウェブサイト
- レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載)

Ⅶ 評価結果

DNV は、ダイキアクシスから提供された情報と実施された業務に基づき、ダイキアクシスがサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)の適格性評価手順の要求事項を満たしており、サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)の定義・目的の「環境及び社会への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社.

2021 年 9 月 28 日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



香取 剛

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

スケジュール-1 ダイキアックス サステナビリティファイナンス

表-1 ダイキアックス サステナビリティファイナンス 候補プロジェクト及び資産

No.	プロジェクト ポートフォリオ		プロジェクト分類 [環境・社会面]	プロジェクト サブ分類	充当予定額	特記事項 (概要、製品仕様、設置場所、等)	
01	環境機器 関連事業 (水関連イン フラ事業)	浄化槽製造 工場の建設・ 運営等	01-1 インド	環境 -持続可能な水資源およ び廃水管理 -汚染防止と管理 社会 -手ごろな価格の基本的 インフラ設備	環境・社会 -生活・事業場排 水による周辺地域 の環境汚染を防止 するための廃水処 理システム -公共水域浄化シ ステム	10.7 億円	-概要 ：浄化槽増産及び新規生産にかかる、工場建屋・設備及 び土地取得資金 -製品仕様(例) ：生活排水対応浄化槽 -設置場所 ：インド、バングラディッシュ、ケニア、ミャンマー、スリランカ
			01-2 スリランカ				
			01-3 バングラディッシュ				
			01-4 ケニア				
			01-5 ミャンマー				
02	排水処理事業 (BOO 事 業・BOT 事 業)	インド、バングラディ ッシュ、ケニア、スリランカ、 ミャンマー		2.7 億円	概要 ：BOO・BOT事業による排水処理システムの提供 -製品仕様(例) ：生活排水対応浄化槽 -設置場所 ：インド、バングラディッシュ、ケニア、スリランカ、ミャンマー		
03	Water Kiosk によるクリーンな飲料水 の供給	社会 -手ごろな価格の基本的 インフラ設備(飲料水) -必要不可欠なサービスハ のアクセス(健康)	環境・社会 クリーンな飲料水の 供給	0.4 億円	-概要 ：RO膜を利用したクリーンな飲料水を提供するための販売 設備の建設・運営 -設置場所 ：インド		
04	再生可能 エネルギー 関連事業	太陽光発電事業の開発・運営・設備 販売等	再生可能エネルギー [エネルギー起源 CO2 削減]	太陽光発電事業 (陸上)	8 億円	概要 ：太陽光発電事業の開発・運営・設備販売等を行う事業 会社のM&A資金	

No.	プロジェクト ポートフォリオ	プロジェクト分類 [環境・社会面]	プロジェクト サブ分類	充当予定額	特記事項 (概要、製品仕様、設置場所、等)
					-設置場所：国内各地に約60件(プロジェクトの出力合計約4,870kW、2021年時点)

スケジュール-2 ダイキアクシスサステナビリティファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト SF-1～SF-4 は、グリーンボンド原則 2021、グリーンローン原則 2021 をはじめとする関連基準で定められる 4 つの核となる要素にもとづき、サステナビリティファイナンス適格性評価用に作成された DNV 手順です。*SF; Sustainability Finance, サステナビリティファイナンス

SF-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	サステナビリティファイナンスの種類は GBP 等で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> ・(標準的)サステナビリティファイナンス ・レベニューファイナンス ・プロジェクトファイナンス ・その他 	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシス サステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、ダイキアクシスフレームワーク) ダイキアクシス関係者との協議 	評価作業を通じダイキアクシスサステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)(以下、サステナビリティファイナンス)は以下のカテゴリに分類されることを確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ・その他 - * 新株予約権行使及びローンにより調達した資金をダイキアクシスサステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、ダイキアクシスフレームワーク)に基づき、環境及び社会貢献が明確にされた適格プロジェクトへの資金充当、プロジェクトの評価及び選定、調達資金の管理及びレポートングを実施するものである
1b	サステナビリティ(グリーン及びソーシャル)プロジェクト分類	サステナビリティファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がサステナビリティプロジェクトのために使われることであり、そのことは、サステナビリティファイナンス(新株予約権及びローン)発行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス開示資料(サステナビリティファイナンス に関するお知らせ(予定)) - ダイキアクシスウェブサイト 	ダイキアクシスフレームワークの中で特定されたプロジェクトが GBP、GLP 及び SBP をはじめとする基準で分類される代表的な以下の適格カテゴリに該当する。また 環境貢献(グリーン) <ul style="list-style-type: none"> - 持続可能な水資源および廃水管理 - 汚染防止と管理 - 再生可能エネルギー

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
			M&A で取得する再生可能エネルギー事業に関する情報ダイキアキス関係者との協議	<p>社会貢献(ソーシャル)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 手ごろな価格の基本的インフラ設備(クリーンな飲料水) - 必要不可欠なサービスへのアクセス(健康、健康管理) <p>調達した資金は新規ファイナンスもしくはリファイナンスとして新たなプロジェクトもしくは充当済みのプロジェクトにリファイナンス(ローン返済)に資産充当される計画である。</p>
1c	環境面及び社会面での便益	調達資金使途先となる全てのサステナビリティプロジェクトは明確な環境面及び社会面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス関係者との協議 	<p>DNV は、適格プロジェクトのうち、水関連インフラ事業の実行では、生活排水処理、事業場排水処理、公共水域浄化及び正常な飲料水の提供により、1b で示す環境貢献及び社会貢献に資することを確認した。これらは、排水処理量(km³/年)や飲料水の供給量(km³/年)として定量的に評価され、また、機器の製造・出荷数や設置した施設数が定期レポートで開示される予定である。適格プロジェクトのうち、太陽光発電事業の実行では、連係工事完了後の発電施設の稼働及び、売却完了後の発電施設の稼働により、1b に示す環境貢献に資することを確認した。これらは環境改善効果として定量的に評価され、自社保有する連係工事済みの発電施設数、発電施設の出力(kW)、年間発電電力量(kWh)及び CO2 削減量 (t-CO2/年) や、開発・販売した施設の出力(kW)が定期レポートで開示される予定である。</p> <p>DNV はアセスメントを通じ、プロジェクト実行に関連する環境・社会影響リスクは以下の観点で考慮されており、相対的に少ないと判断した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等) - 地域コミュニティへの対応 <p>また、プロジェクト-03 についてはインド中央政府(水環境省)が掲げる“Jal Jeevan Mission(JJM)” のうち飲料水問題解決に対する取組みであることを確認している。</p>
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファ	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス関係者との協議 	<p>新株予約権実行とローン調達のうち、ローンによる資金充当が先行した場合、新株予約権で調達した資金はローン返済金の一部として使われる。リファイナンスの対象となったプロジェクト及びリファイナンスとしての充当額は年次レポートでの開示に含める。</p>

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
		イナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。		

SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>サステナビリティファイナンスの発行体は調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトが適格なサステナビリティ(グリーン、ソーシャル)プロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス 調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての基準作成 環境面、社会面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイキアクシスフレームワーク ダイキアクシス内部文書(充当対象の選出について) <p>ダイキアクシス関係者との協議</p>	<p>ダイキアクシスフレームワークに基づき、ダイキアクシスは以下の基準に従いプロジェクトの選定を行った。</p> <p>適格プロジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュール 1 に記載されるサステナビリティプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、またダイキアクシスフレームワークに記載する適格クライテリア[グリーン性(環境貢献)及びソーシャル性(社会貢献)]を満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたこと。 プロジェクトの実行に当たっては「Ⅱ 項 スコープと目的(3)適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクト選定の際に、「選出における前提条件」として下記を実施もしくは実施し、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していること。 <p>＜サステナビリティプロジェクト選出における前提条件＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施 等) 地域コミュニティへの対応

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	サステナビリティファイナンスプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、投資家は発行体のフレームワークや環境性及び社会性に関する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス経営理念、中期経営計画他 ダイキアキス関係者との協議	DNVは文書及びインタビューを通じたアセスメントにより、ダイキアキスが経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG経営の推進)を通じ、環境機器関連事業のうち水関連インフラ事業が持続可能な社会に貢献する方針であることを確認した。また、ダイキアキスが開示している決算説明会資料等でサステナビリティプロジェクトを含む成長戦略を示しており、持続性のある活動であることを確認した。ダイキアキスはサステナビリティプロジェクトによる環境及び社会課題の改善効果について、フレームワークに基づいて年次レポートする計画である。
				また、ダイキアキスとの協議及び文書レビューにおいて、DNVはダイキアキスの実施するサステナビリティプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効な事業であるということを確認した。

SF-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	サステナビリティファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、サステナビリティプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス内部管理規程文書類 ダイキアキス関係者との協議	DNVは文書レビューとインタビューにより、調達した資金の全てはサステナビリティファイナンス発行後(新株予約権の権利行使後もしくはローン調達後)からプロジェクト充当までの間、ダイキアキスの一般的な会計口座に入金され、その後、経理管理規定や文書管理規定に基づく内部プロセスを用いて適格プロジェクトに充当される。
3b	調達資金の追跡管理-2	サステナビリティファイナンスを管理すべき期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス内部管理規程文書類 ダイキアキス関係者との協議	DNVは文書レビューとインタビューにより、ダイキアキスがサステナビリティファイナンス発行後(新株予約権の権利行使後もしくはローン調達後)からプロジェクト充当までの期間、どのように資金を追跡管理するかについて確認した。DNVは発行体が調達資金(新株予約権の権利行使で得た資金)は適時、サステナビリティプロジェクトへ新規充当する計画であることを確認した。発行体は少なくとも各会計年度毎に定期的にサ

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
				<p>テナビリティファイナンスの残高(新株予約権の権利行使した後に未充当となっている資金もしくは未充当のローン)をレビューする計画である。</p>
3c	一時的な運用方法	<p>適格性のあるサステナビリティプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。</p>	<p>確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク - ダイキアクシス内部管理規程文書類 ダイキアクシス関係者との協議</p>	<p>ダイキアクシスは調達資金について、プロジェクトの進捗状況に応じ、適時ファイナンス(新規投資)もしくはリファイナンスとして支出する予定であり、新株予約権の権利行使後の未充当資金もしくは未充当のローンについて、現金または現金同等物で管理(運用)する計画であることを確認した。</p>

SF-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はサステナビリティファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス関係者との協議 	<p>ダイキアキスはサステナビリティファイナンスで要求される特定の項目についてダイキアキスウェブサイトにて年次で情報開示を行う予定である。</p> <p>情報開示には資金充当状況、プロジェクト進捗状況、環境及び社会貢献に関連する定性的及び定量的な報告が含まれる。</p> <p>具体的には、水関連インフラ事業では排水処理量(km³/年)、飲料水の供給量(km³/年)及び関連する機器の製造・出荷数、設置した施設数が、太陽光発電事業では調達資金を充当した適格プロジェクトの連系工事完了済みの発電施設数、発電施設の出力(kW)、年間発電電力量(kWh)及びCO2削減量(t-CO2/年)、調達資金を充当し売却が完了した施設の出力(kW)が定期レポートで開示される予定である。</p>